小学校英語 Just Now

英語表現に触れる頻度を高めるカリキュラム —モジュール導入　その1 カリキュラムと環境整備

松宮奈賀子　Matsumiya Nagako
（広島大学大学院教育学研究科）
清水由美子　Shimizu Yumiko
（広島県安芸郡海田町立海田小学校）

1. はじめに

海田（かいた）町は広島市に隣接する自然に恵まれた町で，4つの小学校と2つの中学校があります。海田町の小学校では平成23年度以前には，学級担任とALTのティーム・ティーチング（TT）で，第1学年から第6学年まで年に数回の外国語（英語）活動を実施してきました。しかしながら，実施時数や指導内容は学校間で大きなばらつきがある状態でした。平成23年度以降は，低・中学年は従来の体制を維持しつつ，高学年ではJALT（日本人専科指導員，1名）が4小学校すべての外国語活動にT2として入り，学級担任とのTT体制を整えてきました。

海田町では，平成25年度までの実践をふり返り，そこに見られた課題解決を目指すべく，平成26年度より新たな取り組みを行っています。その新たな取り組みの代表的なものが高学年でのモジュール授業の導入です。本稿では，平成26年度より始まった海田町4小学校全体でのモジュールの取り組みについてご紹介します。

2. モジュール導入の背景

⑴ 児童の自己評価から見えた課題

平成25年度終了時点で外国語活動の評価の3観点に対する児童の自信の自己評価を調査したところ，表1の結果を得ました（調査対象第5学年）。「慣れ親しみ」への肯定的評価が他の2観点より低いことが課題として見えてきました。

表1　平成25年度終了時点の児童の自己評価

	肯定的評価をした児童（%）
	第5学年
コミュ	87.1
慣れ親しみ	71.8
気付き	84.4

※コミュ：コミュニケーションへの関心・意欲・態度
慣れ親しみ：外国語への慣れ親しみ
気付き：言語や文化に関する気付き

⑵ 授業研究から見えた課題

授業研究を繰り返す中で，授業中に使用する英語の少なさがしばしば指摘されました。特に，日本語での話し合いや，ふり返りの時間が長いことへの指摘がなされました。例えば，劇を行うときに，セリフを考えたり，話し方を考えたりなど，日本語を使って行う時間が長く，児童が英語を活用する時間が短い状況が見られ，英語を使用する，英語に触れる時間の短さが課題として挙がりました。

外国語への慣れ親しみへの自信が低い状況と，授業における英語の使用量の少なさの両方を打開する方策として，英語に触れる頻度を増やすことが考えられましたが，年間35時間の外国語活動の時数を増やすことはできない状況でした。

3. カリキュラム変更―モジュールの導入

前記のような課題と状況を踏まえ，海田町では，学習の頻度を高めるために，カリキュラムを変更し，モジュールを導入することを決めました。

モジュールを導入するにあたり，まず年間指導計画を見直すこととしました。これまでは *Hi, friends!*（文部科学省）を使用し，その指導の順序や内容，教材等は各担任と JALT が相談をして進めていたため，各校で指導内容に違いがある状況でした。平成 26 年度にモジュールを導入する際に，*Hi, friends!* を主に使用することは継続しましたが，指導の順序や単元構成を見直し，4 校共通の年間指導計画を作成しました。また自作の共通教材も取り入れることとしました。

モジュールでは 45 分授業を 20 分と 25 分に分け，週 2 回の授業を行うこととしました。そして，各単元の最終時のみ 45 分授業を行っています。

20 分と 25 分のモジュールと組み合わせる他教科については，各学校の裁量としました。例えば，国語や算数のドリル学習を行ったり，総合的な学習の時間として短時間で行う内容を取り入れたりするなど，各学校で工夫をしていきました。

最初のうちは，児童も指導者もモジュールの形態に慣れていないため，なかなかスムーズに授業を切り替えることができなかったり，機器の準備に時間がかかって，活動時間が短くなってしまったりするなど困難な面も見られました。そのため，特別教室への移動を無くし，それまでプロジェクターとスクリーンを準備してデジタル教材を提示していたものを，タブレット端末と大型 TV の使用に切り替えました。またカード教材にあらかじめ磁石を貼り，すばやく掲示できるようにしたり，ICT 教材に変えたり，ふり返りカードを工夫したりするなどの，活動時間の効率化も図りました。

そして単元の最後の時間は 45 分とし，じっくりとコミュニケーションを図る時間を設定し，単元構成を行いました。

4. モジュール導入に伴う環境整備

モジュール導入に伴って，次のような環境（体制・設備）を整えました。

⑴ JALT 2 名体制設立

これまで 1 名であった JALT を 2 名採用し，モジュール導入に伴う授業回数増に対応できるようにしました。

⑵ 外国語活動コーディネーターの配置

4 小学校全てで，一定の指導を保証するために，町全体で統一のカリキュラム，学習指導案，教材を活用することにしました。そのため，町内小中 6 校を兼務する「外国語活動コーディネーター」を配置しました。コーディネーターは中学校の英語科教員および小学校での学級担任の経験を持っており，カリキュラムや学習指導案の作成から，各校の指導へのアドバイスや研修を担当しています。また中学校を主に担当する「英語科コーディネーター」も配置し，連携を密に行いました。

⑶ グローバル教育推進委員会の設置

町全体が一体となって指導に取組むため，各小学校から 1 名（計 4 名），中学校は英語科教員全員（2 中学校で 6 名），上述のコーディネーター 2 名，JALT2 名の 14 名が委員となり，グローバル教育推進委員会を発足させました。平成 26 年度は 11 回の研修を実施しました。

⑷ タブレット端末，ICT 教材の活用

音声・デジタル教材や絵カード等を収容した端末を活用することで，準備にかかる時間を短縮し，円滑な授業実施ができるように工夫しました。

⑸ ふり返りカードの工夫

ふり返りカードの記入の時間を短縮するために，短時間でめあてに対して適切なふり返りができるような形式のふり返りカードを作成しました。

次号は，モジュールの授業の様子（内容）とふり返りカードの工夫についての紹介と、モジュールの成果と課題についてご報告いたします。